

2012年3月期 第1四半期 決算概要

ルネサス エレクトロニクス株式会社

2011年8月2日

代表取締役社長 赤尾 泰

© 2011 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

社長の赤尾でございます。

本日はご多忙のところお集まりいただき、ありがとうございます。

本日は、お手元に2つのプレゼンテーション資料をお配りしておりますが、

まず、2012年3月期第1四半期の決算概要と、2012年3月期の業績予想についてご説明させていただき、

続いて、前回の決算発表時にお伝えしておりました、当社グループの事業方針についてのご説明をさせていただきます。

エグゼクティブ・サマリー

I. 2012年3月期 第1四半期 決算概要

- 震災の影響などにより半導体売上高が減少(前四半期比 Δ 26%)
- 特別損失として、災害による損失119億円を計上したことなどにより、当期純損益は332億円の赤字を計上

II. 2012年3月期 連結業績予想

- 第2四半期以降の売上回復などにより、下期には営業損益、当期純損益での黒字回復を見込む

こちらが、業績関連についてのご説明内容のサマリーでございます。

1つ目が、2012年3月期 第1四半期の決算概要となります。

半導体売上高は震災の影響などにより、前四半期比26%の減少となりました。前四半期に引き続き、災害による損失を特別損失として計上したことなどにより、当期純損益は332億円の赤字となりました。

2つ目が、2012年3月期の業績予想となります。

通期の業績予想については、主に震災の影響などにより、半導体売上が前期比で約11%の減少、営業利益も280億円の赤字となる見込みであるものの、第2四半期以降の売上回復などにより、下期には営業損益および当期純損益での黒字回復を見込んでおります。

I. 2012年3月期 第1四半期 決算概要

それではまず、2012年3月期 第1四半期の決算概要についてご説明いたします。

2012年3月期 第1四半期 決算概要

- 半導体売上高は、前四半期比26%減の1,840億円
- 営業損益は、売上高の減少などにより191億円の赤字

(単位:億円)	2011年3月期		2012年3月期		
	第1四半期	第4四半期	第1四半期	前期比 (%)	前四半期比 (%)
売上高	2,920	2,753	2,072	△848 (△29%)	△680 (△25%)
半導体売上高	2,615	2,495	1,840	△774 (△30%)	△654 (△26%)
営業損益	△3	104	△191	△188	△295
経常損益	△35	78	△203	△167	△280
四半期純損益	△331	△562	△332	△2	+230
1US\$=	92円	83円	82円	10円 円高	1円 円高
1ユーロ=	121円	111円	117円	4円 円高	6円 円安

まず、第1四半期の業績のサマリです。

半導体売上高につきましては、前四半期比で26%減収の1,840億円、
営業損益につきましては、295億円悪化の191億円の赤字となりました。

また、四半期純損益につきましては、那珂工場における操業休止の固定費を中心に、特別損失として、災害による損失を119億円計上したことなどにより、332億円の赤字となりました。

半導体売上高の詳細につきましては、次ページ以降でご説明してまいります。

四半期業績推移



こちらが、四半期ごとの業績推移でございます。

先ほど申し上げましたとおり、第1四半期の半導体売上高は大幅な減少となりましたが、プレゼンテーションのグラフにお示ししておりますとおり、今回の震災に伴い、当社の複数の生産拠点が生産停止を余儀なくされたことなどにより、約300億円の売上減のインパクトが生じました。

2012年3月期 第1四半期 半導体売上高の事業別状況①

- マイコンとアナログ&パワー半導体は、前四半期比20%弱の売上減
- SoCは、前四半期比44%の売上減と落ち込みが大きい

(単位:億円)	2011年3月期		2012年3月期		
	第1四半期	第4四半期	第1四半期	前期比 (%)	前四半期比 (%)
半導体売上高 計	2,615	2,495	1,840	△774 (△30%)	△654 (△26%)
マイコン	993	950	772	△221 (△22%)	△178 (△19%)
アナログ&パワー半導体(A&P)	826	770	629	△198 (△24%)	△142 (△18%)
SoC	777	747	418	△359 (△46%)	△330 (△44%)
その他半導体	18	27	22	+4 (+19%)	△5 (△19%)

6 © 2011 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

RENESAS

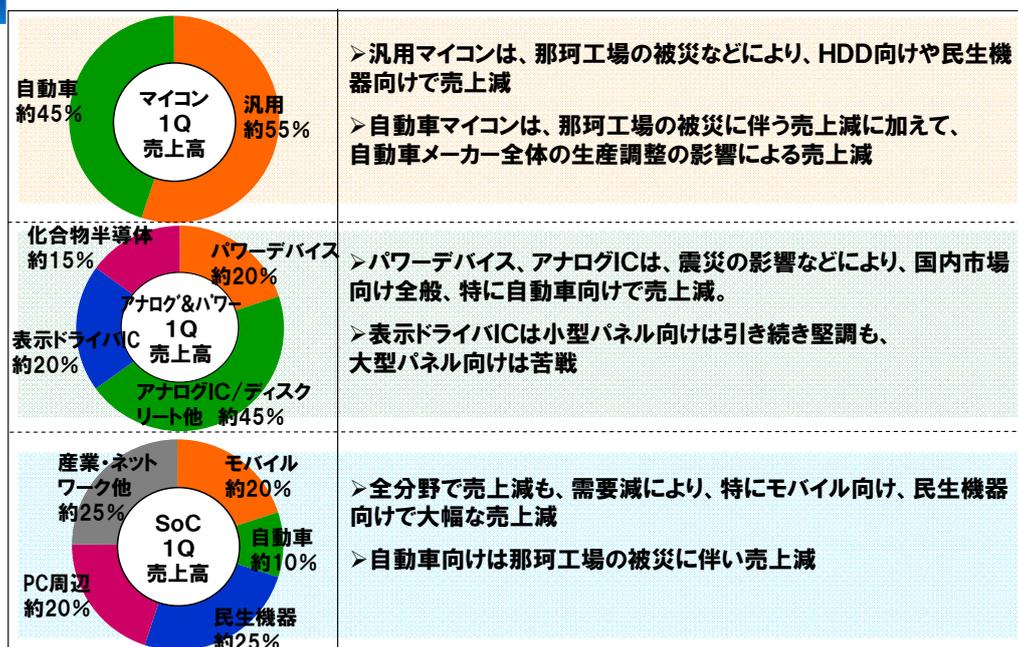
続きまして、第1四半期の事業別の半導体売上高です。

マイコンとアナログ&パワー半導体の売上につきましては、主に震災の影響により、前四半期比で、ともに20%弱の減収となりました。

SoCの売上につきましては、震災影響に加えて、お客様の需要減により、前四半期比で44%の減収となりました。

次のページにおいて、さらに詳細をご説明いたします。

2012年3月期 第1四半期 半導体売上高の事業別状況②



7 © 2011 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

RENESAS

7ページは、第1四半期の各事業別の売上について、さらに分野別での状況を示したものです。

マイコンにつきましては、自動車向け、汎用向けとも、主に那珂工場の被災に伴い、売上が減少いたしました。さらに、自動車向けに関しましては、自動車メーカーの生産調整による影響もございました。

アナログ&パワー半導体につきましては、パワーデバイス、アナログICにおいて、震災の影響などにより、国内市場向け全般、特に自動車向けで、売上が減少いたしました。

SoCにつきましては、特に、モバイル向けや民生機器向けにおいて、需要の減少により、大幅に売上が減少いたしました。また、自動車向けにつきましては、那珂工場の被災による影響により、売上減となりました。

バランスシートの状況

- 転換社債の償還(1,100億円、5/27)により、現金および現金同等物と有利子負債が大幅に減少

(単位:億円)	11/3末	11/6末
総資産	11,450	9,374
うち 現金および現金同等物	3,373	1,770
うち たな卸資産	1,234	1,345
負債合計	8,540	6,816
うち 有利子負債	3,782	2,665
株主資本	3,060	2,728
純資産合計	2,911	2,558
D/Eレシオ(グロス)	1.33倍	1.07倍
D/Eレシオ(ネット)	0.14倍	0.36倍
自己資本比率	24.8%	26.5%

(注)①現金および現金同等物:「現金および預金」と「有価証券」の単純合算値から「預入期間が3ヶ月を超える定期預金」を控除しております。
 ②有利子負債:「短期借入金」、「1年内返済予定の長期借入金」、「1年内償還予定の新株予約権付社債」、「リース債務」、「長期借入金」
 ③自己資本:「株主資本」、「その他の包括利益累計額」 ④D/Eレシオ(グロス):有利子負債/自己資本

続きまして、8ページは、バランスシートの状況であります。

第1四半期において、総資産が約2,100億円減少しておりますが、これは、転換社債1,100億円の償還や早期退職優遇制度の実施に伴う退職金の支払いなどにより、現金及び現金同等物が減少したことや、売上高の減少に伴い売掛金が減少したことなどによるものであります。

キャッシュ・フローの状況

- 売上の減少に加えて、早期退職優遇制度の実施に伴う特別退職金の支払などにより、営業キャッシュ・フローが292億円の赤字

(単位：億円)	2011年3月期			2012年3月期
	第1四半期	第4四半期	通期	第1四半期
営業活動による キャッシュ・フロー	△20	156	1,025	△292
投資活動による キャッシュ・フロー	△144	△240	△958	△148
フリー・ キャッシュ・フロー	△164	△84	67	△440

9ページは、キャッシュ・フローの状況です。

第1四半期につきましては、売上高の減少に加えて、先ほどバランスシートのページでも申しあげました退職金の支払いなどにより、営業キャッシュ・フローが292億円の赤字となりました。

第1四半期のフリー・キャッシュ・フローは440億円の赤字となりましたが、第2四半期以降、キャッシュ・フローは改善していく見込みであります。

II. 2012年3月期 連結業績予想

次に、2012年3月期の連結業績予想についてご説明いたします。

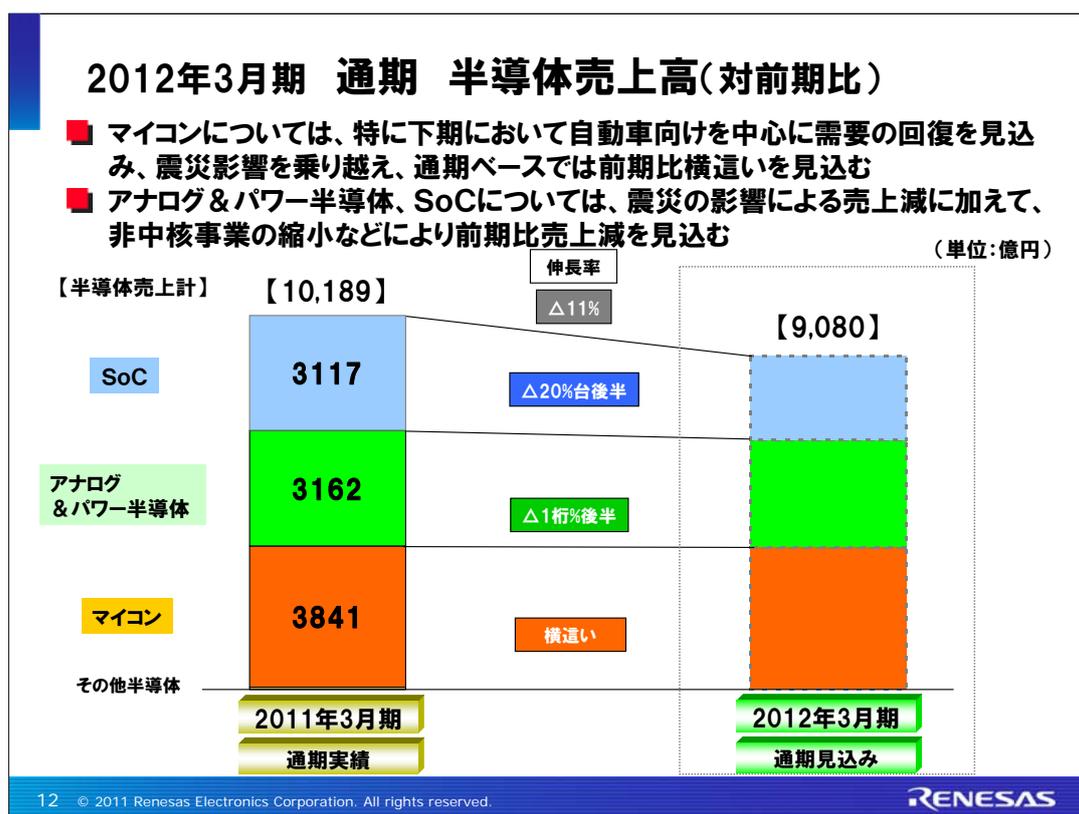
2012年3月期 連結業績予想

- 通期は、震災の影響などにより、前期比で半導体売上が約11%減少。営業損益も280億円の赤字を見込む
- 一方、震災からの早期回復により、下期には、前下期並みの売上まで回復し、営業損益、当期純損益での黒字回復を見込む

(単位:億円)	2011年3月期			2012年3月期			
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	前期比
売上高	5,875	5,504	11,379	4,620	5,570	10,190	△1,189
半導体売上高	5,250	4,939	10,189	4,080	5,000	9,080	△1,109
営業損益	7	138	145	△350	70	△280	△425
経常損益	△78	88	10	△400	30	△370	△380
当期純損益	△412	△738	△1,150	△430	30	△400	+750
1US\$=	90円	83円	86円	82円			-
1ユーロ=	116円	112円	114円	110円			-

通期の連結業績につきましては、震災の影響などにより、半導体売上高は前期比で約11%の減収となる見込みであり、売上高の減少に伴い、営業損益は280億円の赤字となる見込みであります。

一方、下期においては、代替生産を含む那珂工場の生産供給体制の回復や、上期の生産調整のリカバリや復興需要などによる需要増が見込まれることから、半導体売上高は約5,000億円と、前年度下期並みの売上まで回復することを見込んでおり、下期における営業損益の黒字回復、当期純損益の黒字達成を見込んでおります。

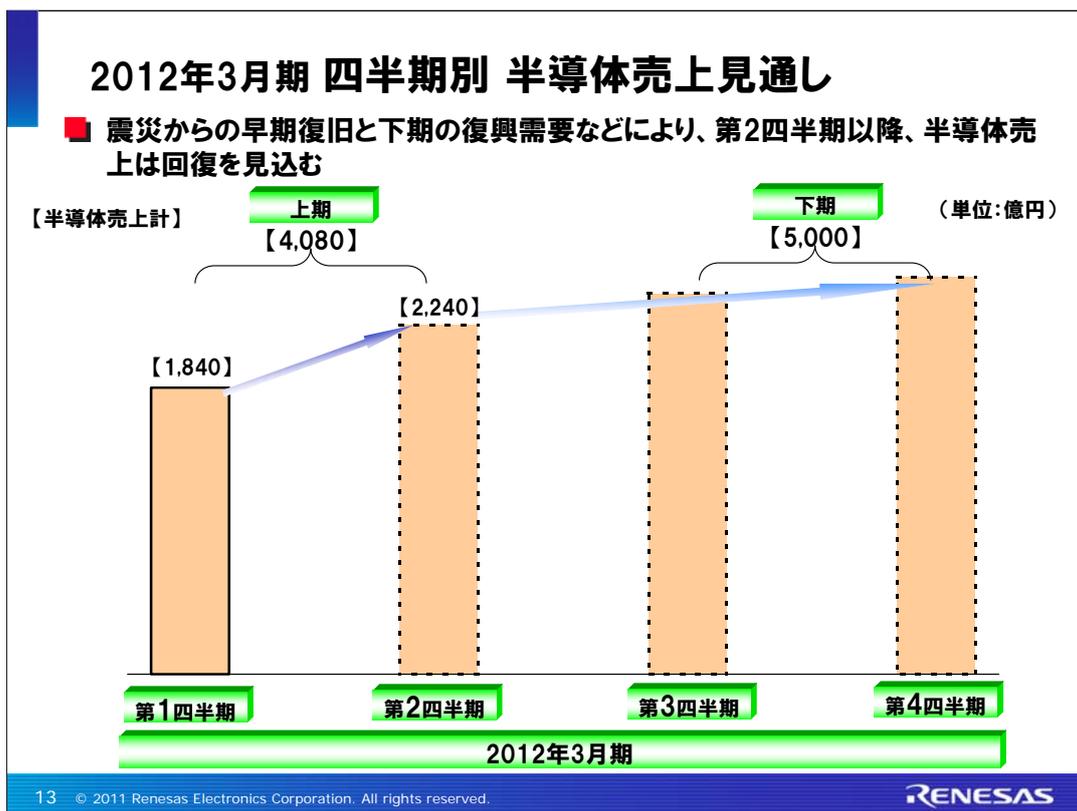


12ページは通期の事業別の半導体売上高見通しについてお示ししています。

事業別にみますと、

アナログ&パワー半導体とSoCについては、震災の影響による売上減に加えて、各事業における非中核事業の縮小などによる売上減により、前期比減収を見込んでおります。

一方、マイコンについては、上期においては震災の影響を大きく受けるものの、下期において自動車向けを中心に需要の回復が見込まれることなどにより、通期では前期比横這いを見込んでおります。

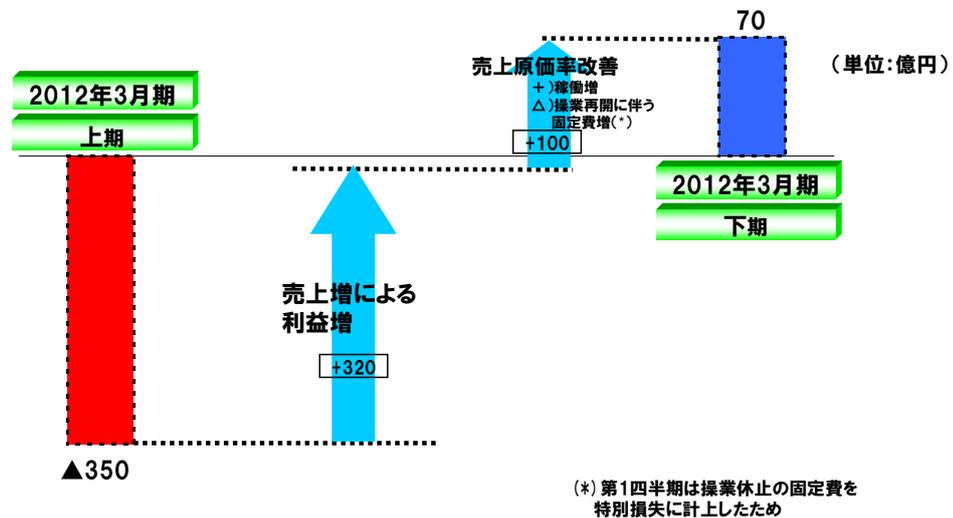


13ページは、2012年3月期における、四半期別の半導体売上高推移についてお示ししています。

四半期別の半導体売上高については、震災からの早期復旧と下期の復興需要などにより、年間を通して回復基調が続くと見込んでおります。

2012年3月期 上期／下期 営業損益 見通し

- 半導体売上高で上期比920億円増により、売上増による利益増を見込む
- 震災からの早期復旧や需要増により、第2四半期以降、生産稼働の改善を見込む

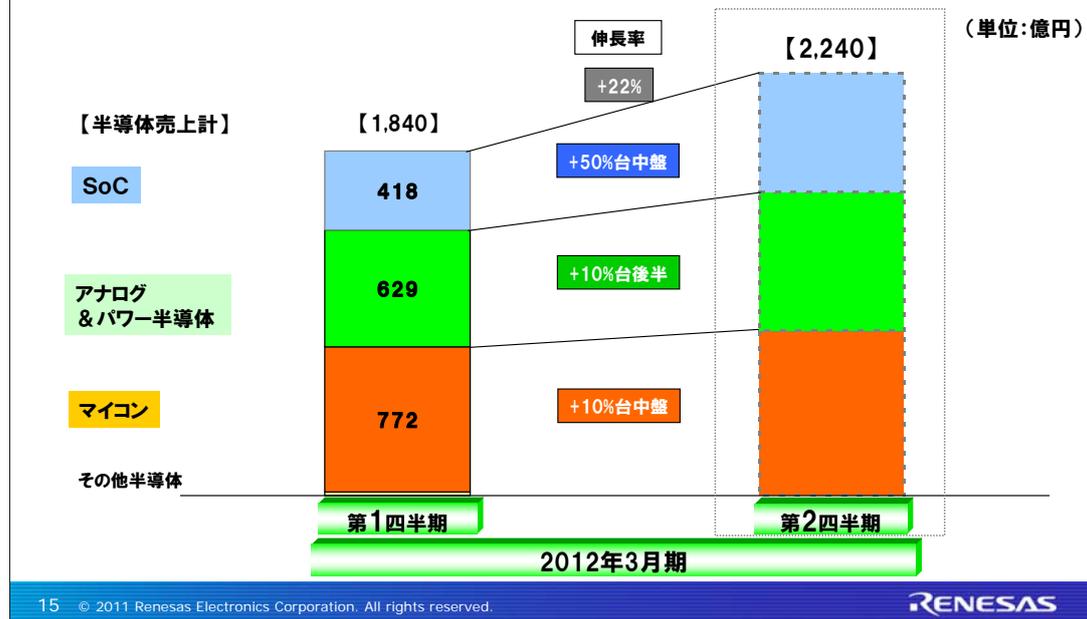


14ページは、2012年3月期の営業損益について、上期から下期にかけての増減をお示したものです。

営業損益については、上期から下期にかけて420億円の改善を見込んでおりますが、改善要因につきましては、プレゼンでお示ししているとおり、震災からの早期復旧や需要増に伴い、売上増による利益増を約320億円、生産稼働の改善による利益増を約100億円、それぞれ見込んでおります。

2012年3月期 第2四半期 半導体売上見通し(対前四半期比)

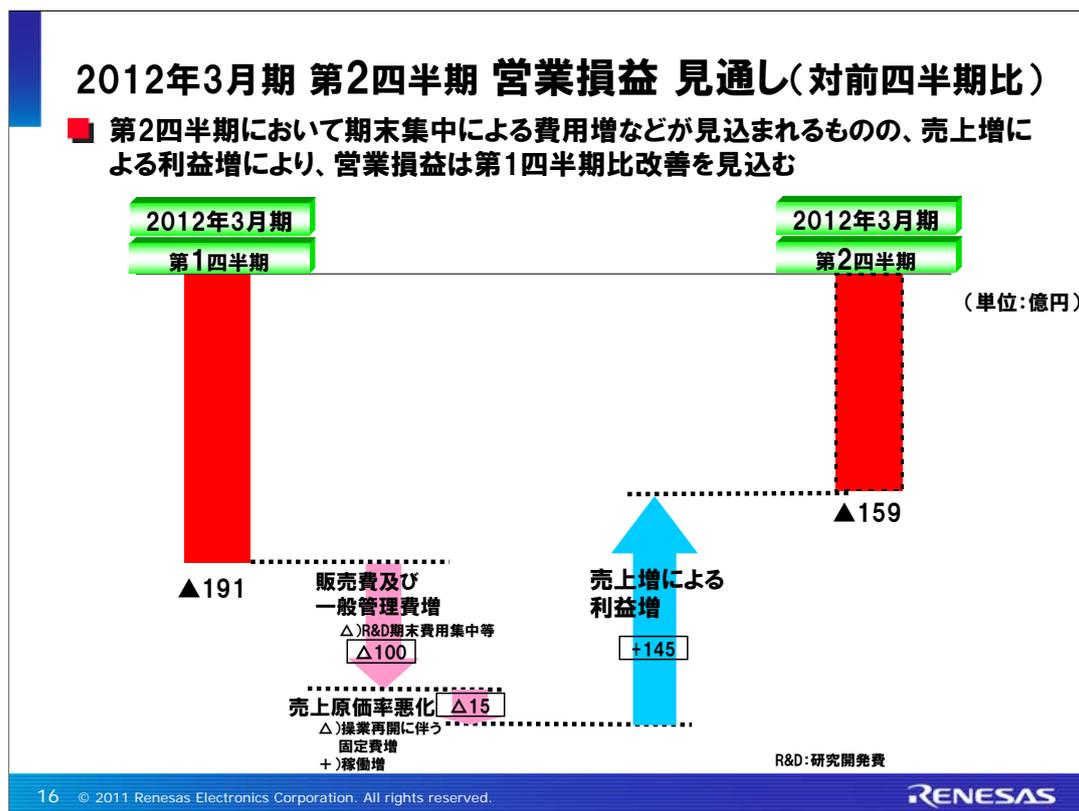
■ 震災からの早期復旧と需要増により、3事業とも前四半期比増収を見込む



続きまして上期の内訳として、第2四半期の事業別の半導体売上高見通しについてお示ししています。

第2四半期の半導体売上高は、第1四半期比約22%増収の2,240億円と想定しております。

震災からの早期復旧と需要増により、3つの全ての事業において、第1四半期比増収を見込んでおり、第1四半期において大きく落ち込んだSoCについても、民生機器向けや自動車向けを中心に売上の回復を見込んでおります。



最後に、第2四半期の営業損益の見通しを前四半期からの増減でお示したものです。

第2四半期の営業損益については、研究開発費の期末集中などによる費用増が見込まれるものの、売上増による利益増が見込まれることから、第1四半期と比較して約30億円改善する見込みです。

なお、売上原価率悪化の要因として、操業再開に伴う固定費増をお示しております。これは、第1四半期においては、操業休止の固定費を特別損失に振り替えておりますが、第2四半期においては、振り替えを行わない見込みであることによるものです。

(将来予測に関する注意)

本資料に記載されているルネサス エレクトロニクスグループ(以下、当社グループ)の計画、戦略および業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき当社グループが判断しており、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因としては、(1)当社グループの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、(2)市場における当社グループの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、(3)激しい競争にさらされた市場において当社グループが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、(4)為替レート(特に米ドルと円との為替レート)の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因があります。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。

業績関連についてのご説明は以上でございます。

続きまして、当社グループの事業方針についてご説明させていただきます。

お手元にある、もう1つのプレゼンテーション資料をご覧ください。

RENESAS

ルネサス エレクトロニクス株式会社

© 2011 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.